

葛城山で森林浴を楽しむ (大阪・奈良)

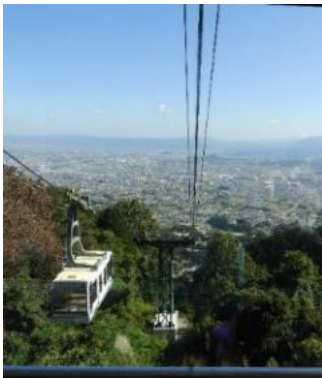


雲一つない秋晴れです。

中央が葛城山 (959m)、左側が金剛山 (1125m)、大阪府と奈良県・和歌山県の境をなす金剛生駒紀泉 (こんごういこまきせん) 国定公園の一角です。

途中の15km程離れた近鉄橿原線新ノ口 (にのくち) 駅からクッキリと見る事が出来ました。

元々葛城山には今年5月に登り一面のツツジを楽しむ予定でしたが、コロナ禍で断念。「ツツジが駄目ならススキがある！」と、秋に再度チャレンジする事になったのです。



朝9時半、近鉄御所 (ごせ) 駅に集合。参加は18名 (男性14、女性4) バスで登山口に向かい、ロープウェイに乗ります。

高低差561mを一気に登り、眼下に大和盆地が広がります。

「国のまほろば」と讃えられた風景の中に、大和三山が浮かびます。



葛城山は様々な神話、伝説に彩られた山です。雄略天皇はこの山で、自身とそっくりな姿をした土地の神に出会って一緒に狩りをしたとか。役行者は山麓の地の生まれで、この山で修業して超能力を身に付け、山岳信仰修験道の祖と仰がれるようになります。行者はこの山から大峰山に橋を架けようとしてうまく行かなかったとか。また久米の仙人は吉野の龍門岳から葛城山に飛行している時、美女の白いふくらはぎに目がくらんで墜落したとも。

山麓一帯は豪族葛城氏の地でもありました。5世紀ごろ葛城氏の女性が宮中に多く入り、一族は天皇家の外戚として力を振るいますが、やがて政争の中で力を失って行きます。



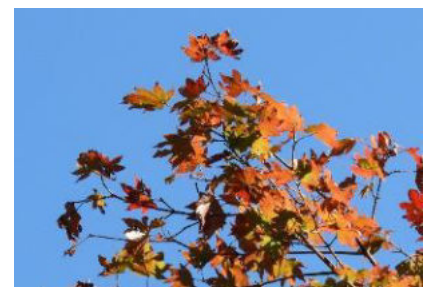
ロープウェイ駅から、山頂へ向かいます。

梢の葉も色付き始めています。

ゆるい上り坂の両側はブナ、ミズナラ、リョウブのまばらな林で、

快適な森林浴を楽しみながら登ります。

10分程で山頂に到着しました。



山頂からは、まさに360度の眺望が楽しめます。
西には大阪湾が広がります。関西国際空港が見えるかと、
デジカメの力を借りて探してみました。距離約40km。
ありました！！ 空港島に飛行機らしい姿も見えました。



全員写真です。
因みに、右端に立っている
ポストは、普通に利用
できるそうです。



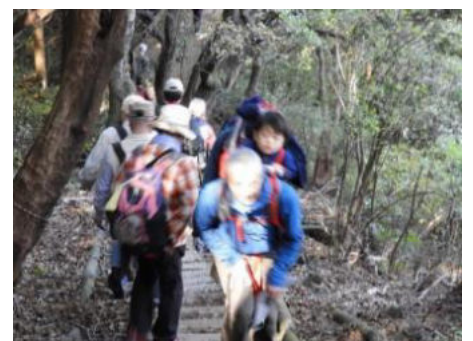
しばらくススキの原の
散策を楽しみます。



この山並みの稜線は金剛山の「金剛」に因んでダイヤモンドトレール（通称ダイトレ）と呼ばれています。奈良県香芝市の屯鶴峯（どんづるぼう）から南へ、二上山、大和葛城山、金剛山、更に西へ、岩湧山、大阪府和泉市の槇尾山まで、全長およそ45kmの登山コースです。
(屯鶴峯は、2018年2月に燦歩しています。)

その「ダイトレ」の一部を辿りつつロープウェイの駅に戻ります。
基本的には下りなのですが、これがなかなかのハードなコース
です。地面は2日前の大雨をまだ含んでいて滑りやすく、木の
根も多く露出、足元を探りつつ、時には樹の幹につかまり、
一步一步下ります。

そんな急坂を喘ぎながらも登って来る若者も多く、その元気さに驚かされました。子供を背負った力持ちのお父さん、写真のブレ方に道の険しさをお察し下さい。距離は大したことは無かったのですが、登りに楽をした分一層ハードな下りになりました。



昼食後は二手に分かれます。①健脚組7名は麓まで歩いて降りバスで御所に戻ります。
②悠々組11名はロープウェイで下って、その後御所駅までの3kmを燦歩します。

まずは**健脚組**です。中腹にある「櫛羅(くじら)の滝」を巡るコースです。下山コースの入り口からしばらくは木漏れ日の中の心地よい路でしたが、10分もすると悪路に急変。泥濘に足を取られて滑ったり、たたらを踏んで足腰を打つ人も。



道は荒れていて崩落も多く、目的の櫛羅の滝も規制のロープが張られて、近くまで行く事は出来ませんでした。

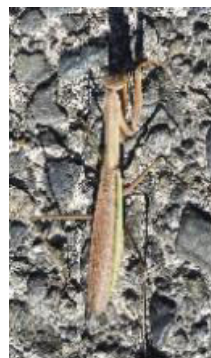
ロープウェイ駅まで、1時間40分かかりました。

(この項 写真・文 種田敦志)

悠遊組はロープウェイで下り、のどかな里山を御所駅に向かいます。



玄関先で干されていたのは、小豆と唐辛子です。里の秋の光景ですね。



カマキリも、残り僅かな秋のぬくもりを体一杯に受け止めているようでした。



下るにしたがって、大和三山も目線の高さに近づいて来ました。



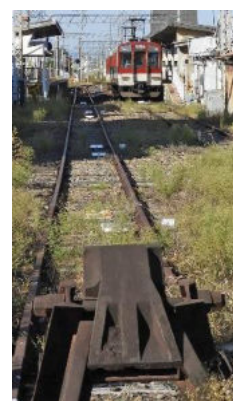
途中で不思議な光景に出会いました。坂道の真ん中に、大きな岩がどっかり鎮座しているのです。あるいは、大岩があったので路がこのように作られたのでしょうか。岩の上部には六地藏が彫られ花も供えられています。この地域は葛城山からの出水で度々災害に見舞われ、この大岩も室町時代に土石流で押し流されて来たものだそうです。因みに山中の滝もこの辺りも「櫛羅（くじら）」という地名ですが、「崩れ（くずれ）」が語源という考えもあるようです。災害の度に、多くの田畑が失われ、村人の命も奪われたのかも知れません。六体の地蔵は葛城山に向かい、更に西の方極楽浄土に向かって、亡き人の往生を祈ったものでしょうか。



道は平坦になり、二つの神社にお参りしました。鴨山口神社は葛城山の入口に当たって山の神を祀り、風雨を治める事を祈った所で、山崩れの為この地に遷座されたのだそうです。平安時代の神社一覧「神名帳」にも載っている由緒ある古社です。

崇道（すどう）神社は、30mを超えてそそり立つ神木のムクロジとムクとの木が、圧倒的な迫力でした。桓武天皇の弟で皇太子の早良親王（さわらしんのう）は反逆の疑いをかけられ、食を絶って自死。その後種々不幸が起こり悪疫も流行したのは、みな早良親王の祟りだとして懼れられ、改めて崇道天皇の号が贈られます。恨みを残して亡くなった親王の霊を祀る崇道神社、その魂を慰めることによって、庇護を願ったのでしょうが、まことに物凄さを感じさせる巨木でした。

14時半に近鉄御所駅に到着。ちょうどその頃、健脚組はロープウェイの駅に着いたという事でした。夫々に、無事解散しました。



いつもながらの蛇足で失礼します。

葛城山 個人的な思い出

40年以上も前の昭和53（1978）年1月、私達は寒風の中、この葛城で取材をしていました。麓の吉祥草寺で行われる火祭り「茅原の大とんど」（写真）を中心に、冬の葛城の風物を描くのが番組の意図でした。この頃ようやく肩に担げるほどの小型のテレビカメラが配備され、持ち運び出来るビデオレコーダーと合わせて、鮮明な画像（当時としては）のビデオロケが出来るようになったのです。もちろん、今日の「鶴瓶の家族に乾杯」や「ブラタモリ」のように、カメラが軽々と移動できる訳ではありません。がとにかく、ビデオロケが出来るようになったのです。



葛城ロープウェイに機材一式を積み込んで、上昇しながら窓外や麓の景色を撮影するなど、それまでのビデオでは思っても出来なかった移動撮影も試みました。当初の目論見では、一帯には適度に雪が積もり、葛城山頂では名物の樹氷も撮影できるかも知れないと、期待していたのですが、その様な兆しは全くありませんでした。1週間程の取材期間はいわゆる「ピーカン」の晴れ続き、冬枯れの景色ばかりで、雪のかけらも撮れなかったのです。それなのに、ロケ終了の翌日から俄かに大雪が降ったのも、まことに苦い思い出でした。

今回も 買い出し

燦歩会は別名「買い出し燦歩会」とも。悠遊組は下山の途中、JA農産物直売所に出会いました。透き通るような薄緑色のヒスイナス、キラキラ光る万願寺唐辛子、ふっくらと実った富有柿。また葛城山麓は園芸も盛んで、イリスの球根も併せて買いました。合計税込み630円。家人は思わず「安うー」と叫んでいました。その上何よりも新鮮！！ 美味しくいただきました。



ご案内

旧友会員の方、職員の方、入会大歓迎です。メンバーはおよそ50名です。入念な下見を行い、中途離脱も可能なルートを設定して、**毎月第4日曜日**に歩いています。現在はコロナ対応のため、事前予約制にしています。

今後の予定 11月 京都トレイル第4回 銀閣寺前から比叡山まで（京都）
12月 納会（大阪）
1月～3月 コロナ禍対応で、コースを再検討しています。

参加ご希望の方は、会務担当山村恵一にご連絡下さい。

（電話：090-1484-4403、メール：y-yamamura@ares.eonet.ne.jp）

ご一緒に気軽に楽しく歩きましょう。

（写真・文 生島 幸弥）